

令和4年度 第1回学校運営協議会（兼 第1回コンプライアンス委員会）議事録

1 期日 令和4年6月21日（火）午前9時30分から12時30分まで

2 参加者 <学校運営協議会委員>

岩見 良憲 元浜松学院大学教授 元特別支援学校長
伏見 修 株式会社 富士山ドリームビレッジ 代表取締役
井出 正則 社会福祉法人 富士市社会福祉協議会 障害サービス室長
望月 勝也 八王子1丁目町内会長
勝亦 英介 勝亦園 (所用により欠席)
安田 慶子 令和4年度富士特別支援学校PTA会長

<教職員>

滝尾 彰彦 (校長) 片岡 佳美 (副校長) 村上 智美 (教頭)
岩崎 肇 (事務長)
稲木 龍元 (小学部主事) 竹下 哲之 (中学部主事)
山川 裕子 (高等部主事) 土屋 ふみ (教務主任)
渡辺あゆみ (保健主事) ※コンプライアンス委員会からの参加

3 校長挨拶

4月から富士特支に赴任した。昨年より学校評議員会から学校運営協議会となった。もっと、より地域の皆さんの意見を反映させていきたいと考える。学校運営方針や各学部の説明、校内見学を通して、実践を見ていただいて、いろいろな御意見をいただきたい。

任命書交付（委員のうち勝亦氏は欠席、後日郵送）

4 委員の自己紹介

岩見委員

一昨年まで浜松学院大学で特別支援教育を教えていた。その前は特支の教員を35年、トータルで45年特別支援教育に携わった。今は畑を耕したり、朝、交差点で子どもの見守り隊を1時間程したりしている。子どもが顔を覚えて挨拶してくれるようになり、それをエネルギーとしている。

伏見委員

2006年に就労移行を富士宮で起ち上げ、そこから特支とのつきあいがある。就労を中心に生活介護など22カ所を運営している。今年度、清水区に新たに施設ができる予定。

井出委員

現在は社会福祉協議会であるが、ふじやま学園、市の障害福祉課、みはら園にも勤務した。社会福祉協議会は施設を10カ所運営し相談事業も行っている。高3の実習では成長した生徒を見ることができて励みになる。昨年度の卒業生が何人かおり、頑張っている。

望月委員

八王子一丁目町内会長。定年後、今は、フロント公園近くの会社にアルバイトで勤めている。富士特支の生徒が前を通った時に挨拶をしてくれる。

安田委員

子どもは現在中3男子。富士市駅南に結婚後から住んでいる。みはら園では井出委員にお世話になった。小1から富士特支に通っていて、今年で9年目。学校と地域が連携するよう、自分なりに考えながらやっていきたい。

5 運営協議会について

今年度2年目。副校長より、パンフレット「学校運営協議会」から主な機能について説明。
会長副会長の選出
岩見委員を会長、伏見委員を副会長に選出

6 議事

司会 岩見委員長

(1) 学校経営計画説明（校長）

<グランドデザインについて>

学校教育目標は「富士に向かってはばたく たくましく生きる人」を育てる。本校は平成21年に開校した。その頃と学校教育目標は変わってきたが「たくましく」の部分は変わっていない。

富士…雄大な富士、広々とした社会

はばたく…羽を伸ばしいろいろな活動を行い広い社会へ出る

たくましく…体や筋肉など健康面だけでなく、心も大事。困難があった時も強い心をもって
頑張る

これらを合わせて、学校教育目標を考えている。

目指す児童生徒像は、学校教育目標を受け学習指導要領の3つの観点と合わせて立ててある。「考え・伝え・やってみる」は研究のテーマとも深くつながっている。

学校経営テーマは「誰もが幸せを感じる学校」。児童生徒、保護者、地域の方々、勤める教職員など、学校に関わる方全員がよかったと感じる学校を目指す。

<目標具現化の柱、本年度の取組について>

具現化の柱は4つ。

ア 安心安全について（豊かな心と体）健康な体をつくるでは専門家による性教育研修を行い、体と心を守る。美術や音楽では自分を発散することを大事にして表現の喜びを高める。読書活動には力を入れており、PTAの図書ボランティアも活動している。教員による読み聞かせも行った。子どもがよく注目していてよかった。人権教育については人権チェックシートを使い、相手がどう思っているか知る、考えるという思いをもつようにしたい。食育では、先週のふるさと給食では、地域に関連したメニューを考えた。（安心・安全な教育環境：ゴシック体は今年度重点目標）コロナの感染レベルは現在1で落ち着いているが、基礎疾患がある子どもがいるので気をつけている。登校後はまず消毒、マスク着用指導。医ケアの子どもについては看護師と研修を積んだ教員が対応。緊急時については事故のとき迅速に対応できるよう研修している。防災は、R4R5県指定研究校。富士山噴火も意識していく。はごろも夢講演会では、大阪から講師を呼び福祉避難所などについて6月に講演を開催。夏休みには福祉避難所運営研修やHUG研修を行う。

イ 児童生徒の学びについて（主体的、対話的で深い学び）学校に求められる肝となるところ。授業研究や研修会を実施。今年度が3年間の研究のまとめの年。6グループに分かれて研修を行っており、後期に外部の方を呼び意見を聞く。ICTプロジェクトでは、ICTをどう学校生活に取り入れていくか教員へ提案。（キャリア発達）12年間のつながりプロジェクトでは、指導を系統的に積み重ねていく。縦のつながりと横のつながり、学習間のつながりも大事。（発達段階）5月に静岡大学の香野先生に来ていただき、御指導いただいた。

ウ 学校・家庭・地域について（センター的機能）校外の子どもへの助言。教員、子どもへの支援のアドバイス。高校より相談が増えてきている。（協働）個別には表れを伝える。また情報提供やホームページや作品展などで情報発信する。新設分校設置では富士東高の中に高等部段階の生徒を対象として設置準備をしている。

エ 教職員の専門性について(基礎・基本) 学び合いのOJT。経験豊富な教員と経験が浅い教員がペアとなり伝えていく取り組み。(チームで業務改善)「誰もが～」の中に教員も入っている。教員自身も働きがいがあることが、子どもたちの指導に生きていく。

<各学部の取り組み>

小学部説明(小主事)

(目指す児童像) 見通しをもつ: 活動に気付く、興味を育成、自分でできることを伸ばす、学校生活の流れを覚え生活リズムを整える。考え、伝え、やってみる: よく見て対象に関わろうとする、相手の気持ちを受け入れる、働きかけに何らかの形で応答、気持ちを伝える

進んで: 主体的、社会性、一緒の場から協力してへ、発達段階を重視、毎日を楽しみに登校、主体性を発揮して活動する、友達や教員に会いたい、期待感をもって活動する(学部経営の重点)

安心・安全: 家庭事情を理解し保護者に共感して対応する

たくましく: 実生活に生きる力を育む、保護者と日々のやりとりや面談で共感的理解を示す、SCやほっとたいむ外部機関を示し連携していく

地域資源: 校外学習や交流学习を行う

中学部説明(中主事)

小学部の基本となる力と高等部の自立と社会参加をつなぐ。小から培った力を発揮しながら高へつなぐ。中は思春期で人格を形成する大切な時期。今年は小・中・高のつながりを考え直したい。(目指す生徒像) 既習経験を生かす。仲間とのやりとりを大切にする。縦割りが増えいろいろな学習集団となる。周りの友達の意見を受け入れ、新しい考え方を発見し認めていく。学び合いの中で育てていく。自分の役割や係活動等任されたところをしっかりと行う。(学部経営の重点) 生活課題解決が多くなり、仲間と解決することを通して社会性を育てる。目に見えない社会より、身近な人や地域の人等、直接的な活動を通して達成感を高める。思春期なので性への意識を考慮。富士市についての調べ学習では、大淵地区の秋山オートへインタビューを行い仕事への意識が高まった。教員の専門性を高めて、子どもが生き生きと活動する姿をめざす。

高等部説明(高主事)

社会への出口。社会参加へ。週5日、健康管理と共に規則正しい生活を送る。人と望ましいコミュニケーションができる人。集団や社会のきまりを守れる人。生活を豊かに、コンスタントに発揮できる人。教員は強みや得意を生かす指導・支援、Give&Take。その人の長所を伸ばす、できることを増やす。困難に立ち向かう耐性や受け入れて許容する心を作る。このような生徒指導や働き方は、不祥事を抑制することに役立つ。支援学級から入学してきた生徒は育ちの問題や今までの教育による心の傷がある。トリートメントし本来の力が発揮できるよう支援する。県の健康福祉部に出向していた教員がいるので経験を生かしてケアにあたっていく。作業や進路だけでなく、高等部は学校生活最後の場。青春の1ページとして青春を謳歌し青春を燃やしてほしい。

訪問部説明(教頭)

各学部に準じる。様々な事情で通学が難しい児童生徒に対し、教員が出向く。家庭での授業であるが、学校と同じように朝の会から授業を行う。年2回集合学習を行い、共同制作や音楽会を通して他学年の友達とスクーリングやリモートで関わる。

(2) 校内参観 部主事の案内で校内を参観

(3) 質疑応答・感想等

岩見委員 グランドデザインの経営テーマ「誰もが～」について。この言葉を職員にどう浸透させるか。具体的にどうするか。また、働き方改革についてどう取り組んでいるか。近年、教員にブラックのイメージがあり教員志望の大学生が減っている。

校長 「誰もが～」について、年度当初に説明したがまだ浸透していない。本校では全体会議が少ないので企画会などで話をしてだんだん浸透させていきたい。まずは自分自身が心穏やかに、積極的に教員に声掛けをし、教員が自分もメンバーという気持ちを持ち孤立しないよう、笑顔で接することを心掛けている。具体策はまだないが意識していく。働き方については、なかなか業務の量が多い。面談時に減らせる業務について聞き取りをしている。あれもこれもやりたいことは出てくるが、メリハリをつけて行うことができるよう、面談で意見を吸い上げている。教員を目指す学生にとっても、安心して勤められる学校にしていきたいと考える。

伏見委員 LGBTQの相談が増えてきたと感じる。知的障害の方でもトラブルがある。性教育が大切。子どもだけでなく、教員もあるかも。学校では何か行っているか。また、働き方については自分の会社もなかなかうまくいかない。働きやすさと働きがいは違う。働きやすさを追求すると楽になって定着しない。企業なのでアフターコロナを見据えている。そこを見て動かないと乗り遅れる。学校はアフターコロナを考えているか。

校長 LGBTQは学校では具体的にしていない。高等部の制服について、東分校では新しい制服となるが、今は具体的にはない。アフターコロナについて。今はコロナ対応で学校行事を見直している。実はそのやり方が良かった、その方が子どもが生き生きしているということがある。コロナだからでなく、子どもが生き生きとする姿を考えていきたい。

井出委員 小学部で、家庭事情が入っていてよかった。今、いろいろな家庭が増えているいろいろな配慮が必要。御家庭を支援しないと難しい時代となっている。小学部で学校に来るのが楽しいのは基本的なこと。高等部は進路や仕事になりがちだけど、青春を謳歌してほしい、大事にしてほしいということはよい。卒業後に生きてくる。また、今はいろいろな相談機関がある。手をつなぐ会は元PTAをやっていた人が多く年齢層が高くなっている。若い親御さんにもぜひ入ってもらいたい。6/20 広報ふじに小中一貫の松野学園が特集されていた。松野学園設立により何か特支に影響があるか。

校長 松野学園に影響されて何か特支が変わることはない。

望月委員 非常口に半分荷物が置いてある。非常の際に通ることができるか。非常口について教員に説明してあるか。

校長 御指摘ありがとうございます。たくさんの教材がある。もう一度非常口について確認をする。防災課を中心に取り組みを進める。

安田委員 前から気になっていたが、日本語が通じない子どもや保護者にどう対応しているのか。

小部主事 外国語の方は日本語が難しい。フィリピン語、ポルトガル語、スペイン語の方がいる。県から通訳を派遣してもらい面談や学年懇談会を行っている。書面は情報を精選し分かりやすくしている。また来校の際に書面でなく直接伝えるようにしている。

安田委員 家庭の事情がいろいろある。保護者同士で愚痴を言い合って終わることもあるが、学校での相談について知りたい。身近な教員が相談しやすい。どこまで家庭事情を相談できるか。

副校長 スクールカウンセラーとの面談やほっとたいむ、連絡ノートなどがある。学年からあがってきて、どこで対応したらよいか、学年、地域連携課、外部関係機関、医療機関などケースによっていろいろ動く。

安田委員 誰から相談がくるのか？

副校長 家庭からもあるし、子どもや保護者の様子を見て学校から相談どうですか？と、声をかける場合もある。個別面談のときに必要なことを伝えるが、その時に今どうですか？と聞くと活性化する。面談が1つの相談機能。教員のアナウンスの仕方を工夫。こういうことを言ってもいいですよと少しアプローチするようにしていく。

安田委員 コクーの登録の仕方は？親の会って何？些細なことの質問がいろいろある。学校にきていいの？とってしまう。

岩見委員 今一度、丁寧に対応する。そうすると、いろいろ相談がしやすくなる。

- (4) 学校経営計画の承認
協議会にて承認をいただいた

7 閉会

8 コンプライアンス委員会

司会 副校長 ここから保健主事が参加

- (1) 不祥事根絶への取組みについて (教頭)

今年度静岡県では不祥事が続いている。意識を高めていこうと考え、毎月必要な時期に様々なことに取り組んでいる。生徒指導課により人権チェックシートを全員実施し指導について振り返っている。交通事故については力を入れて努力していく。教職員の生徒指導に係る共通ルールを作成し周知。不祥事根絶には教員の働き方も大きく関わっている。働き方の共通理解も図った。勤務時間は少しずつ教員が意識してきた。マイワークデーに会議を入れず自分の時間とし、計画的に仕事をすすめていく。全体学年主任会では互いに情報交換を行い、運営委員会ではできることの取組から改善を進めていく。

- (2) 学校における感染症対策(保健主事)

GW明けから少し罹患者が増加、複数の学年で学年閉鎖がありガイドラインを見直した。

- ・学習グループの入れ替えを減らし、学年あるいはクラス単位とする。
- ・当分の間、手洗い後はペーパータオルを使用する。また蓋付きゴミ箱に捨てる。
- ・教室入口に消毒を設置し、入退室で手指の消毒を行う。
- ・働き方改革を推進し、早めの退勤で感染リスクを下げる。
- ・教員が、感染リスクを考慮した休日の過ごし方を意識する。
- ・サーキュレーターを子どもたちが集まる場所に増設した。

- (3) 意見聴取

伏見委員 防犯カメラについて。ドリビレの生活介護などでは設置している。監視ではなくトラブル回避を目的とし、職員を守るために有効利用している。また新しい職員がケース対応の研修として活用、動画が1番分かりやすい。個人情報があるので難しいと思うが、意見として。ドリビレでは限られた職員人数の中だと見落としがあるのでうまく活用している。

9 閉会のあいさつ

校長 3時間2つの会を行い、ありがとうございます。校内参観では校内のこと、子どもが学んでいる様子を見ていただいた。いろいろな意見をいただき、今後の運営に反映させていきたい。次回10/24(月)9:30~11:30、第3回2/15(水)を予定。